



あけまして おめでとう ございます

千歳市長 山口 幸太郎

第6期総合計画を中心として進めている施策が「成果」となって表われ、まちの「成長」につなげることにより、市民の皆さまが暮らしに価値を感じ、このまちに「住み続けたい」と思っていただけ1年になるよう、今年の「一年一字」は「成」としました。

平成29年の輝かしい新春を健やかに迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、3月に「千歳市人口ビジョン・総合戦略」を策定し、平成32年度の将来人口9万7千人達成に向けて、さまざまな施策を戦略的に総動員させ、移住・定住促進の取り組みを全力で進めてまいりました。

特に、「子育てするなら、千歳市」をキャッチフレーズに、妊娠から子育てまで切れ目なく家族全体を総合的にサポートする「ちとせ版ネウボラ」の導入をはじめ、先進的な子育て支援策を展開し、子育て世代に選ばれるまちを目指して取り組んでまいりました。

また、4月の熊本地方における2度の震度7を観測する連動型地震、道内では8月の観測史上初めてとなる3つの台風の上陸など、自然災害の脅威を再認識した1年でもありました。熊本地震では、本市所在部隊からも、多くの自衛隊員が被災地に入り、昼夜を問わず救助・救援活動に取り組んでいただき、心から敬意と感謝を申し上げます。

一方、国連の要請に基づく国際平和協力活動にも、昨年、本市所在の第7師団から約300名の隊員が派遣され、半年間、遠く南スーダンの地でインフラ整備をはじめ、現地の国づくりに大きく貢献されました。本市としましては、市民の安心・安全を支え、まちづくりに貢献していただいている自衛隊の体制が、今後ともしっかりと維持、強化されるよう、引き続き活動してまいります。

昨年開港90年を迎えた新千歳空港は、LCCの増便やアジア圏を中心とした観光需要の高まりなどにより活況を呈しており、特に国際線の著しい増加を受けて、11月には国際線ターミナル地域の拡張工事が開始されるなど、順調に発展を続けております。

現在、検討が進められている空港の民間委託については、市民の皆さまがその効果を広く受けることができ、まちのさらなる発展につながるよう、積極的に対応してまいりたいと考えております。

本市の人口は、昨年1年間でプラス約530人と、道内の多くのまちで人口減少が進む中、着実に増加を続けております。

この機を生かし、まちのさらなる魅力づくりに努め、市民の皆さまがその暮らしに価値を感じて郷土愛を育み、将来にわたって、本市に「住み続けたい」と感じてもらえるよう、引き続きまちづくりに全力で取り組んでまいります。

本年は、北陽小学校区への新たな学童クラブの開設、まちなかのにぎわいや憩いの空間づくりを目指した「千歳川桜プロジェクト」の推進、市民サービスの向上に向けた市役所第2庁舎の着工、さらには、9月に開設を予定している「千歳市休日夜間急病センター」の整備などを着実に進めてまいります。新しい一年が、活力にあふれ、市民の皆さまの笑顔が輝く、希望に満ちた年となりますよう心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。